

熱中時間

書道部 一根室高



根室高書道部の生徒たち

ひろひろ

ねむろ

一筆一筆理想を追求

墨の香りがほのかに漂う書道教室で、そろいのシャージを着た生徒たちが集中した表情で毛筆を動かす。時間が許す限り、中国の古典から抜粋した字を書き続ける。2年生の長岡冨奈部長(16)は「書道に完璧はない」と言い切る。

「完璧がないからこそ、課題がどんどん見つかってきて、自分の理想を追い求める。それが面白い」と語る。書道部は近年、全道、全国レベルの大会に出場を続けていく。今年、来年と2年連続で生徒が全国高校総合文化祭・書道部門の道代表に選ばれたほか、全道高校書道展・研究大会に毎年のように出場している。



新型コロナウイルスの影響は部活動に暗い影を落とした。春に根室市内で予定

気持を集中させて、毛筆を巧みに動かしながら書き上げる

された展覧会が中止に。高体連地区大会を控えた体育系の部活動を激励する恒例の書道パフォーマンスもできなかった。長岡部長は「書道を披露する機会がなくなった」と落胆する。

それでも生徒たちは逆境に負けず、理想を目指して紙に向かう。顧問の林千鶴教諭は「先輩が後輩に教えることが多く、自分たちの力で頑張っているのが分かる。食欲に書いてほしい。諦めず続けることで、表現力は伸びる」と期待する。(村上辰徳)

△メモV1年生2人、2年生3人、3年生1人の計6人。月、火、木曜日の放課後に活動している。